

# 「生活産業基礎」学習指導案

広島県立世羅高等学校  
教諭 詫間 千晴

## 本学習指導案のポイント（中村誉子 指導主事）

本学習指導案は「家庭総合」から学んだ被服の役割との関連を踏まえ、衣生活関連分野における産業の意義や役割を、健康・快適・安全の視点等で捉え、生徒の消費者としての視点と生活産業や職業とを関連付けた取組となっている。衣生活に関連する産業・職業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する思考の過程を通して、職業人として必要な基礎的な資質・能力を将来の進路選択に生かす取組となっており、デジタル機器を用いながら主体的・対話的で深い学びになるよう展開が工夫されている。

1 実施日：令和4年11月15日（火）5限：13時30分～14時20分（50分）

2 学年・学級：生活福祉科 1学年2組（21名）

3 題材名：衣生活関連分野の産業と職業

4 題材について

### （1）題材観

本題材は、生活産業への関心を高めるために、家庭に関する学科に関連した産業の種類や特徴、関連する職業について、社会人講師の講話や産業現場等の見学、就業体験活動、調査などを取り入れて理解するとともに、その成果を考察したり、発表したりすることができるようにすることをねらいとしている。このねらいを実現するために、①家庭に関する学科に関連した産業の種類や特徴、関連する産業について理解し、関連する情報を収集・整理すること、②生活産業に関連する職業につくための課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫すること、③生活産業と職業について自ら学び、生活産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことの3つの事項を踏まえて学習活動を展開する。なお、本題材の目標は、高等学校学習指導要領（平成30年告示）家庭編 第2章 家庭科の各科目 第1節 生活産業基礎（4）生活産業と職業 イ 衣生活関連分野を踏まえて設定した。

### （2）生徒観

本クラスは、生活福祉科の生徒であり、生活関連産業に興味・関心が高い様子がうかがえる。夏休みには、看護、管理栄養、ホテル、ファッション、美容、保育の6つのグループに分かれて産業現場の見学と職業インタビューを実施した。生徒を対象として事前に集計したアンケートでは、「ファッション（美容を含む）に関することは好きですか？」の質問に対して「はい」と答えた生徒は90.5%と非常に高い割合を示した。しかし、「私服は自分で選んで買いますか？」に「いいえ」と回答した生徒の割合が19%、「衣服は自分で管理していますか？」に「いいえ」と回答した生徒の割合が33.3%、「自分もっている衣服をすべて把握していますか？」に「いいえ」と回答した生徒の割合が23.8%であったことから、ファッションに関心があるものの、衣服の選択や管理については自身で行っていない生徒もいることが明らかとなった。そのため、自身の衣生活を振り返らせ、衣服の選択や管理についても関心をもたせるとともに、製造・販売する視点から衣服を捉え直させることを通して、衣生活に関連する産業への関心を高め、専門性の向上を目指す必要があると考えた。

### （3）指導観

前述のように、衣服の選択や管理についての関心が低い生徒もいることから、消費者の視点からアパレル関連企業の視点を取り入れることで、ファッションを多面的に捉え、自身の衣生活行動が社会や世界全体とつながっていることを意識させることが有効であると考えた。そのため、本題材では、被服の役割、被服の入手・管理など、科目「家庭総合」の学習内容との関連を踏まえるとともに、日本における衣生活の変遷や、アパレル関連産業が衣服を製造・販売する際に行うセグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングの流れを取り入れ、広い視野で衣生活関連分野に興味・関心をもつことができるようにしたい。

指導方法としては、ファッションが表すもの、ファッションを構成する要素についてクイズを通して考えさせ、科目「家庭総合」で学習した被服の役割とともに振り返り、多面的な思考を促すことで、これまでの価値を修正したり、新たな価値意識に気付いたりする機会を設ける。また、教員のファッションコーディネートを考える活動を通して、販売者としての視点を理解させ、自己の被服選択・購入に活かせる学びにしたい。

## 5 題材の目標

衣生活に関わる産業・職業の意義と役割や、人々の感性や意識の多様化によって、ファッションがライフスタイルを反映するようになっている現状を理解することができる。また、衣生活に関連する産業・職業に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けるとともに、衣生活に関わる資格や職業についての関心を高め、将来の進路選択に活かすことができる。

## 6 題材の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
衣生活に関連する産業・職業について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。	衣生活に関連する産業・職業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	衣生活に関連する産業・職業への関心を高め、適切な進路選択と専門性の向上を目指して自ら学び、生活産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

7 指導と評価の計画 (全 5 時間)

次	学習内容 (時数)	学習活動	評価			
			知	思	主	評価方法
1	衣生活の変化と生活産業とのかかわり (1時間)	・和装から洋装へと変化した日本の衣生活の変遷について学習する ・ファッションやファッションビジネスの多様化について学習する	◎			・ワークシート ・定期考査 ・振り返り Form
2	ファッションが表すもの、ファッションを構成する要素 (2時間) 2/2が <b>本時</b>	・アパレル関連産業が衣服を製造・販売する際の視点について学習する ・教員のファッションコーディネート进行を考案し、発表する		◎	○	・ワークシート ・発表スライド ・振り返り Form
3	ファッション産業の仕組み (1時間)	・ファッション産業とアパレル産業の関係について学習する ・衣服を販売する際のポスターを作成する	◎	○		・ワークシート ・ポスター ・振り返り Form
4	衣生活関連の職業と資格 (1時間)	・色彩検定、カラーコーディネーター検定の過去問等を解く過程を通して衣生活関連の職業と資格について学習する	◎			・ワークシート ・定期考査 ・振り返り Form

8 本時の展開

(1) 本時の目標

ファッションが表すもの、ファッションを構成する要素について体系的・系統的に理解し、企業の視点からファッションを捉え直すことを通して、自身の衣服の適切な選択に活かすとともに、適切な進路選択と専門性の向上を目指して自ら学ぶ態度を養う。

(2) 観点別評価規準

- 教員の好み、悩み、予算に合ったコーディネートを考案し、①コーディネートのテーマ、②なぜこのコーディネートにしたのか、③コーディネートのアピールポイントについて明確に発表することができているか。【思考・判断・表現】
- グループ活動において積極的に参加するとともに、本時の学習を自身の衣服の適切な選択に活かす様子がうかがえるか。【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 準備物

パワーポイント、ワークシート、3名の教員のワンピース

(4) 学習の展開 (2/2) **本時**

	学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
導入 5分	●前時の学習の振り返り マーケティングの STP がファッション産業においてどのように活用されているのかを復習する ●発表の仕方を説明するとともに、発表順番を決定する	◆①～③の内容を明確に発表することを再度伝える	
展開 I 15分	●グループで発表スライドを作成する 「先生に似合う衣服を提案しよう」 担任・副担任の先生の服の好み、悩み、予算などを踏まえて、コーディネートを考える 3名×7グループで話し合い、下記①～③の内容について、Google スライドを用いて案をまとめる ①コーディネートのテーマ ②なぜこのコーディネートにしたのか ③コーディネートのアピールポイント	◆発表準備が進んでいないグループには、アイデアなどを提供するなど、話し合いが円滑に進むような手立てをする	◇グループ活動において積極的に参加しているか 【主体的に学習に取り組む態度】 (授業態度、ワークシート)
展開 II 25分	●グループごとに発表 ・1グループ3分程度で発表 ・iPadを用いてスライド投影 ・①～③について一人ずつ説明する →担任・副担任の先生に一つの案を選んでもらう	◆教員、ファッションブランドのくじをつくり、各グループで考える条件を指定してから思考させる	◇教員の好み、悩み、予算、に合ったコーディネートを考案し、わかりやすく発表することができているか。 【思考・判断・表現】 (発表スライド)
まとめ 5分	●本時の学習について、振り返りを Google Forms に入力し、提出する ●次時は本時の学びを活かしてファッション産業の仕組みについて学習することを予告する		◇本時の学習を自身の衣服の適切な選択に活かす様子がうかがえるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 (振り返り Form)

(5) 判断基準

評価	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A (十分満足できる)	教員の好み、悩み、予算に合ったコーディネートを考案し、わかりやすく発表することができている。	グループ活動において積極的に参加するとともに、本時の学習を自身の衣生活に活かす様子がうかがえる。
B (おおむね満足)	教員の好み、悩み、予算に合ったコーディネートを考案しているが、わかりやすく発表することができていない。	グループ活動において積極的に参加しているが、本時の学習を自身の衣生活に活かす様子がうかがえない。
C (努力を要する)	教員の好み、悩み、予算に合ったコーディネートを考案できていない。	グループ活動において積極的に参加しておらず、本時の学習を自身の衣生活に活かす様子がうかがえない。